

大草谷津田いきものの里自然観察会

森の驚きの秘密

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2019年12月15日（日）10時30分～12時 天気：晴れ

参加者： 15名（大人 9名、子ども 6名）

担当指導員：佐野由輝、川北紀子

寒さの方もそれほどでもなく、天候にも恵まれて小さな子どもたちを含む15名の参加者となり、にぎやかな観察会になりました。

まずは、竹串で土を刺して、「森の土」と「道の土」の違いを体感しました。「森の土」だと、竹串が完全になくなるまですっぽり入るのに対し、数メートルしか離れていない「道の土」では、堅くて串がほとんど土の中に入らず、その違いに驚いていました。続いて、容器に採取しておいたそれぞれの土の重さを比べました。最初は道の土、次に森の土を持ってもらおうと、森の土を持った瞬間に、「おー！」と感動していました。ふわふわな森の土は道の土よりもずっと軽いんですね。そして、いよいよ森の土の驚きの秘密の実験です。子どもたちに協力してもらい、それぞれの土に水を流して、滴るしずくの速さを計測してみました。森の土のほうが道の土よりも3倍の速度で水が浸透することが分かりました。

次に大木の下で木の赤ちゃん探し。参加者全員で、見つけた赤ちゃんに旗を刺しました。すると、1本の木の下に数え切れないほどの赤ちゃんがいることが分かりました。でも、これらの赤ちゃんが生き残るには、親の木が死ぬことが必要です。その後、9月・10月の台風等の災害で無残な姿になっているスギ林に移動し、一見死の世界に見えるけど、明るくなった林床には稚樹が沢山あり、長期的に見れば森の世代交代に繋がっていくということに、皆さん納得されたようです。

続いて、切り株を観察し、樹木は毎年年輪を作りながら、少しずつ太くなることを説明した後、大草で一番太いケヤキの幹回りを測ったり、日本で一番太い巨樹と同じ幹回りのロープを用意し、参加者全員で輪になって、その太さを体感してもらいました。

谷津田まで降りた後、目をつぶって貰い、周りの音や風の状態を感じてもらい、森の防音・防風などの効果を体感してもらったり、斜面林の様子を観察し、斜めになっても倒れない樹木を観察しながら、根が土を抑えていること等に気付いてもらいました。

最後に、まとめとして、「森からのおくりもの」という紙芝居を披露しました。普段は気が付かない「森の驚きの秘密」をじっくりと感じてもらった観察会でした。

